

# ノイエスだより

ノイエス朝日  
(朝日印刷工業株式会社)

群馬県前橋市元総社町73-5  
TEL 027-255-3434  
FAX 027-255-3435  
https://www.neues-asahi.jp  
Communication House  
NEUES  
ASAHI

夏の夕方といえば夕立がきて、夕立が去った後の爽やかな夜風が気持ちよかった……というのは昔の話で、最近ではムンムンとした湿気が多い空のまま暑い夜になります。今年は蛍鑑賞のピークも早すぎて見そびれましたが、前橋公園でも蛍が見られるようになったと新聞に出ていて驚きました。県庁の上から見る利根川は、晴れている日にはとても美しい深緑色で、確かに水質が良くなっているのだと思います。工業用水など垂れ流しで海も川も見ると汚染されていたのが嘘のようです。発展途上の国では日本と同じ過ちは繰り返さずに環境を大事にした発展をしてほしいのですが、すでにインドなどでは環境汚染が深刻化しているようです。カナダの山火事の煙がニューヨークに達する映像を見て、空も海も川も、自然界には国境がないことを改めて感じました。国外の事だからと言って他人事ではありません。世界中で起こる環境汚染と環境破壊、そしてそれを止めようとする人や改善しようとする活動の攻防がこれからも続くでしょう。

人は何故同じ過ちを繰り返すのでしょうか。絶対に無い方がいいに決まっていると思う争いや犯罪が無くならないのは悩ましいことです。善悪の判断や正義についてなどの哲学とか思想的相違の難しい問題かもしれませんし、単純に「それで得をする人がいるから」という人もいます。世の中には様々な思想の人がいますが、多様性を認めて持続可能な発展を目指そうという声がある一方、その運動に反する人や組織と、どのようにならざるを得ない地球で平和に生きていけばいいのでしょうか。

ところで、現在息子が期末テストへ向けた課題が終わらずにとっても嫌がっています。自分も同じ経験をして大変だったからこそ、親としては小さい頃から「やるべきことは先に片づけてから遊びなさい」と言っていました。結局切羽詰まるまではのんびりくらしと過ごし、テスト前に大騒ぎして家庭内不和が起こることに繰り返してしまいます。そしてそれは私の親との歴史の繰り返しでもあります。だめだと思っただけでもやっつけよう、わかっていてもできない、だんだん相手の立場に立つこともできず攻撃的になる……この繰り返し負の歴史を断ち切ることができれば、人類にとっても前進になるのではないかと!? 立場の違いを超えて永続的に皆が穏やかになる方法が知りたいです。

そんなことを考えていたら映画『2001年宇宙の旅』を思い出しました。冒頭で、猿人が道具を得て戦う場面から急に未来の軍事基地の映像になる展開は昔は訳がわからなかったけれど、今ではかなり哲学的だと感じます。人工知能の存在が現実化した今、映画に登場する人口知能とのやりとりはホラー映画かと思うほど怖いです。争うのも、修復するのも、進化するのも人の歴史。三歩進んで二歩下がるとはいえ、少しでも良い方向へ向かっていることを願うばかりです。  
(橋本)

## ノイエス朝日〈展覧会〉のご案内

### 第7回 榎田展

表現・できごと

〈企画〉

会期 七月八日(土)～十六日(日)

午前十時～午後五時

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

上杉一道 掛川孝夫 河内世紀一 小林 正  
酒井重良 住谷夢幻 萩原敏孝 平野裕明  
福島保典 真下京子

### 原誠二展

〈企画〉

会期 七月二十二日(土)～三十日(日)

午前十時～午後五時

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

ノイエスでの個展は二〇一七年以来、六年ぶりとなります。さらに独自の世界は進化し、日本画の新しい楽しみ方を再発見できることでしょう。近年制作の大作から新作の小さな作品まで展示・販売いたします。

### 第58回 自由美術群馬展

会期 八月四日(金)～八日(火)

午前十時～午後五時

会場 ノイエス朝日 スペース1・2

六日(日) 午後二時から会場で自由参加の批評会を行います。

## ノイエス朝日 今後の展覧会

### 萩原敏孝展

八月十九日(土)～八月二十七日(日)

### 飯出架波市 暮らしの挽物工芸展

九月二日(土)～九月十日(日)

### 金曜会展

九月十二日(火)～九月十四日(木)

\*詳細は、次回にご案内します。

よもやま話……

先日ノイエスで知人と空也上人象の話をしていて、言葉が天使から発せられている様子が描かれているフラアンジェリコの受胎告知の一つを思い出しました。

制作年代は違いますが、時代や時空や雑念を超えて、切り取った一瞬の情景と言葉を、静かで抑えた表現の中に表す様が似ていると感じました。世界中の古代遺跡や歴史に残る彫像や絵画を見比べると、情報交換もままならない時代なのに似ている表現が多々あるのはとても興味深いと思います。ちなみに私は西洋絵画ではルネサンス黎明期のが好きです。そして全く余談ですが「空也の最中」が大好きです。

去年は空也上人像が東京に来て展示されましたが、残念ながら出かけられなかったため、いつか京都の六波羅蜜寺に行つて実物を見たいと思っています。

※空也(最中屋)の初代は、もとは畳屋として江戸城に出入りしていたが、大政奉還で職を失い、瓢箪を叩きながら踊る踊り念仏の関東空也衆で親しくしていた日本橋の榮太樓本舗の主人から、職人を集めて和菓子屋になることを勧められ、一八八四年に上野の池之端で店を創業した。従つて屋号の由来は空也上人であり、空也最中の瓢箪型も踊り念仏で使う瓢箪に由来している。空也は夏目漱石をはじめ林芙美子、舟橋聖一など明治から昭和にかけての文豪たちから敬意にされて、「吾輩は猫である」など、彼らの作品の中で「空也もなか」や「空也餅」がしばしば登場している。



空也上人像 康勝作 十三世紀 木造色  
一一七、六 cm 六波羅蜜寺 京都 日本



フラアンジェリコ 受胎告知  
Beato Angelico, Annunciazione, 1433-1434,  
tempera su tavola (194x194 cm), Museo  
Diocesano di Cortona (AR)